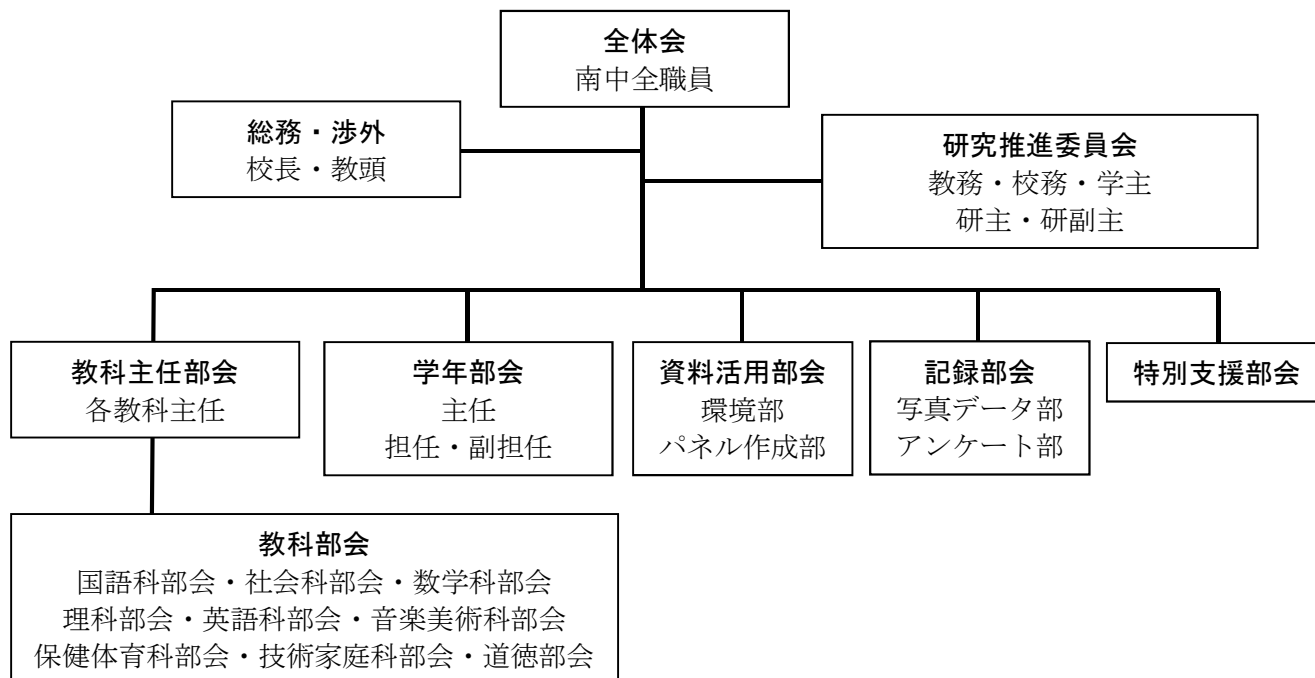


# 組織及び2学期の実践

## 1 組織



## 2 2学期の実践について

※ 授業参観の申し込みについては、参観申込書をダウンロードしFAXにて担当者（教務 山本）に電話で事前確認の上申し込んでください。

順番	教科	授業者	月日	曜日	時間	単元
1	技術科	下岡	10/〇	火	5	製作品の設計・製作
2	道徳科	下古谷	10/18	木	1	友情
3	社会科	田中	10/29	月	5	現代と民主政治と社会
4	国語科	片田	10/31	水	2	敬語
5	理科	鬼塚	10/31	水	2	天気
6	社会科	早川	11/5	月	5	中部地方
7	数学科	若山	11/7	水	1	比例・反比例の利用
8	英語科	仲井	11/12	月	3	Unit 6-1 関係代名詞
9	保健体育科	山本毬	11/15	木	5	マット運動
10	数学科	内山	11/15~19	—	—	一次関数の利用
11	理科	藤田	11/〇	—	—	光
12	英語科	小野山	11/28	水	3	DS⑤ 道案内
13	国語科	松島	12/4	火	3	課題や方向を捉えて話し合う
14	美術科	高村	12/5	水	1	鑑賞

# 研究推進教科部会 手立て立案まとめ用紙 ( 国語 ) 科

(1) 授業の中において、各教科の多面的な見方・考え方を大切にしながら、3つの学びを意識して授業を行う。

見方・考え方	
対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉え、自分の思いや考えを形成し深めること。	

気付く学び	重点	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学習課題を見つけ、課題を通して何を学ぶのかを明確に知る。</li> </ul>
	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の初めに教材文を通読させ、単元の全体構想をつかんだ上で、単元全体の目標や時間毎の目標の見通しをもたせる。</li> <li>前時の想起をもとに、学習目標を考えさせ、生徒の言葉を使いながらまとめる。</li> <li>初発の感想→疑問→キーワード→課題</li> <li>考えた学習課題の中から、自分たちが取り組みたいものを選び学ばせる。</li> </ul>
深化する学び	重点	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の生徒と意見を交換することで、自分と異なる意見・見方に気付いたり、自分の考えを修正したりしながら自分の意見を深める。</li> </ul>
	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語や説明文で、書かれていることを根拠に、登場人物の心情や筆者の考えを読み取る時間を設定する。</li> <li>グループでの話し合い活動や、全体発表をもとに、読み取りの幅を広げさせる。</li> <li>個人で使うワークシートと話し合いで使うホワイトボード等を視覚的に関連させ、活動間の思考の意向が円滑になるようにする。</li> <li>課題にレベルを設定し、グループでの話し合いに対して意欲がもてるようにする。</li> <li>グループ活動での司会の役割や話し合いの手順を明確にし、話し合い活動を円滑にすすめられるスキルを身に付けさせる。</li> </ul>
つなげる学び	重点	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の価値について実感をもち、他教科、実生活に生かす。</li> </ul>
	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の振り返りシートに「できたこと」と「他の教科や生活で役立ちそうなこと」を記入し、学習したことが何に生かせるかを考えさせる。</li> <li>振り返りシートに複数回分の授業の振り返りが記入できる形式にし、生徒がシートを見て変容がわかるようにする。</li> <li>他の教科や生活で役立ちそうなことを授業内で教師が紹介する。</li> </ul>

## 研究推進教科部会 手立て立案まとめ用紙 ( 社会 ) 科

(1) 授業の中において、各教科の多面的な見方・考え方を大切にしながら、3つの学びを意識して授業を行う。

見方・考え方	
社会的事象に対する関心を高め、さまざまな視点からものごとを捉えることで、社会を構成する一人であるとの自覚や社会参画への態度を育てること	

気付く学び	重点	自分の生活と社会的事象の結び付きに気付く。
	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用し、本時の学習内容を想起させる地図、グラフ、写真などを提示する。</li> <li>・生徒の日常生活に基づいた「答えが一つにならない問題」を提示し、そこから出た疑問をもとに課題を設定させる。</li> </ul>
深化する学び	重点	協働的な探究活動に取り組む。
	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対する自分の考えを、資料などを基に、ノートやワークシートに記入する。</li> <li>・課題解決に向けてグループで話し合わせ、考えを深めさせる。</li> <li>・各班の考えを発表させ、学級全体で関連付けながら確認させる。</li> </ul>
つなげ	重点	自分は社会を構成する一人であるとの認識の基、話し合った内容から社会参画への意欲を高める。

具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な社会問題に対して、「自分なら何ができるか」「どう関わっていくか」を考えさせる。</li> <li>・学習したことを基に、ノートやワークシートに自分の意見をまとめさせ、自分のこととして捉えさせる。</li> <li>・学習したことと日常生活との関わりを感じさせる例や事象を、写真などの資料を使って紹介する。</li> </ul>
----------	--

## 研究推進教科部会 手立て立案まとめ用紙 ( 数学 ) 科

(1) 授業の中において、各教科の多面的な見方・考え方を大切にしながら、3つの学びを意識して授業を行う。

見方・考え方	
<p>事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、総合的・発展的に考えること</p> <p>また、数学的活動の楽しさや、数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度を養う。</p>	

気付く学び	重点	数学的活動に意欲をもち、自ら課題を見つけて粘り強く探求できる授業を展開する。
	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な事象を題材として導入を行い、事象の中から数学的に解明が必要な点をとらえさせ、課題をもたせる。</li> <li>・課題の提示に際しては、既習段階から次のステップに行くために考察ができるようなものや、学習にも取り組みたくなるような魅力的なものを提示する。</li> <li>・必要に応じて既習事項の復習を行い、本時の内容と比較させ、活動内容に対する必然性をもたせる。</li> </ul>
深化する学び	重点	グループワークを中心としたアクティブラーニングを活用し、数学的活動に取り組める環境を作り、数学的な表現力や処理能力、数学的活動への態度を養う。
	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークの特性をよく理解し、積極的に授業に取り入れる。話し合うだけではなく、生徒の意見をつないだり、全体に戻したりして、生徒が数量や図形に対して深く考察し、意見に対して自信がもてるようにする。</li> <li>・個人で追求し、意見を持てるような問題を出してからグループワークにすることで、自信をもって発言ができるようにする</li> <li>・発展問題やジャンプの課題を用意し、グループで話し合う必要性をもたせ、各々が深く考察できるようにする。</li> </ul>
つな	重点	日常の様々な事象の解決に、数学的な考え方をういようとする姿勢を身につけさせる。

具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元の導入として公理的に扱われる事柄に、様々な身近な事象を用いる</li> <li>・各単元における利用の節を活用する。グループワーク等を利用し、「なぜその考え方が使えるのか」を話し合わせるなど、既習事項から利用に至る発想を重点においた授業展開を行う。</li> <li>・いろいろな考え方を尊重して、授業の中で取り上げる。また、その際に各考え方のつながりの構造を図解し、論理的な思考の表現の仕方を養う。</li> </ul>
----------	--

## 研究推進教科部会 手立て立案まとめ用紙 (理)科

(1) 授業の中において、各教科の多面的な見方・考え方を大切にしながら、3つの学びを意識して授業を行う。

見方・考え方	
<p>自然の事象や事物に触れる中で、疑問を見つけ、疑問を解決するために、見通しをもって実験・観察を行い、自然の事物・現象から科学的なきまりや法則を導こうとすること。</p>	

気付く学び	重点	日常生活でみられる自然現象や単元内・既習の学習から課題を見つける。
	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用し、実験や自然現象などの映像から課題を見つけさせる。</li> <li>・前時の生徒の気付き（考察など）を取り上げ、新たな課題を見つけさせる。</li> <li>・生徒の日常生活に基づいたわかりやすい課題を提示する。</li> <li>・導入の段階で実験や演示を行い、生徒の疑問から課題をつくりあげる。</li> </ul>
深化する学び	重点	予想を立てて実験・観察を行わせ、協議して考察させる。
	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験に見通しをもたせるために、生活体験や既習事項をもとに予想し、話し合わせる。</li> <li>・各班の実験結果を比較させ、法則を導かせる。</li> <li>・書画カメラなどのICT機器を用いて意見を発表させ、生徒の考えを明確にする。</li> <li>・図やモデルなどを提示し、視覚化することで理解を深めさせる。</li> </ul>

しなげな学び	重点	他教科や日常生活とのつながりを意識させる。
	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT や話し合いをもとに、学習した内容がどの教科、どの場面で生かせるか考えさせる。</li> <li>・ 日常生活で利用されている例や具体物などを紹介する。</li> <li>・ 学習した内容のふりかえりを行い、どのようなつながりがあるか考えさせる。</li> <li>・ 学習したことを基にした、発展した問題に取り組ませる。</li> </ul>

## 研究推進教科部会 手立て立案まとめ用紙 ( 英語 ) 科

(1) 授業の中において、各教科の多面的な見方・考え方を大切にしながら、3つの学びを意識して授業を行う。

見方・考え方	
英語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成し、聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと等のコミュニケーション能力の基礎を養うこと。	

気付きの学び	重点	・ 日常生活を題材にした導入を行い、学習目標を探究していく。
	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しい表現や文法内容を学習する際に、日常生活の話題や身近な事柄を題材にした高等導入をする。</li> <li>・ 身近な話題を用いて、新出表現を紹介することによって日常での使い方に気付かせる。</li> <li>・ 新出単語を学習するとき身の回りでその英語が使われていることに気付かせる。</li> </ul>
深化す	重点	・ 新しい表現や文法内容を定着する。

	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>一斉読み、ペア読み、一文読み、個人読み、暗唱など音読活動を工夫する。</li> <li>新出表現を用いた会話活動をペアやグループで行う。</li> </ul>
しなび なび	重点	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語やその背景にある文化を社会や世界、他社とのかかわりに着目させる。</li> <li>目的・場面・状況等に応じて自分の考えを伝えさせる。</li> </ul>
	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>実生活での使用場面を想定し、既習事項を用いた会話活動を取り入れる。 (ペア・グループ・全体・JET 日本人英語教師・ALT)</li> </ul>

## 研究推進教科部会 手立て立案まとめ用紙 ( 美術 ) 科

(1) 授業の中において、各教科の多面的な見方・考え方を大切にしながら、3つの学びを意識して授業を行う。

見方・考え方	
鑑賞教育の充実を通して、よさや美しさなどの価値や心情など感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。	

気づく 学び	重点	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵や彫刻などの感じ取ったことや考えたことなどを基にする鑑賞活動や、デザインや工芸などの目的や条件などを基にする鑑賞活動を行い、作品の鑑賞や制作過程を通して、ものの見方や感じ方を深める。</li> </ul>
	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典絵画など名品に触れさせ、そのよさに気付かせる。</li> <li>ユニバーサルデザインや循環型デザインなどが生活の中でどのように生かされているか気付かせる。</li> <li>鑑賞シート、作品提示の仕方を工夫して、一人一人の気づきを大切にさせる。</li> <li>地域の文化財や身近な素材の面白さに着目させる。</li> </ul>

深化する学び	重点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問の工夫を行うことで、疑問に感じたことを「なぜなんだろう」と考えを深める場面を設定する。</li> <li>・話し合い活動を取り入れ、個々の感じ方を尊重し合いながら考えを深める。</li> </ul>
	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインや循環型デザインを通して、社会的な諸問題について考えさせる。</li> <li>・著名な芸術家の作品鑑賞を通して、作品に対する作者の思いや願いにせまらせる。</li> </ul>
つなげる学び	重点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術の働きや美術文化が、生活や社会と密接に関わっていることに気付かせ、生活を美しく豊かにする美術の社会的な働きに関心をもち、美術文化を含めた芸術を愛好する気持ちを育てる。</li> </ul>
	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科への関心につなげる授業工夫を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 名作が生まれた時代背景や社会情勢について考えさせる。→社会</li> <li>* 循環型デザインなどを通して社会的な問題について考えさせる。→社会</li> <li>* 作品に使用されている素材について考えさせる。→技術、理科</li> <li>* 作品鑑賞で得た感動や共感を生かし、お互いの個性を認め、理解し合う。→道徳</li> </ul> </li> </ul>

## 研究推進教科部会 手立て立案まとめ用紙 ( 家庭 ) 科

(1) 授業の中において、各教科の多面的な見方・考え方を大切にしながら、3つの学びを意識して授業を行う。

見方・考え方	
<p>家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る家庭事象を各分野の視点で捉え。よりよい生活を営むために工夫や実践をすること。</p>	

気づく	重点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活につなげるために、何を目的として学習するのか明確に知る。</li> </ul>



	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT を活用する等して、家庭生活の場面から学習課題を提示する。</li> <li>・学習課題から、生徒の気付きや考えを取り上げる。</li> </ul>
深化する学び	重点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの視点から、様々な考えに気付き、自分の考えを深める。</li> </ul>
	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動や全体発表を通して、深く考察し、自分の意見に自信が持てるようにする。</li> <li>・実習をすることで、どこがよかったのか、どこを工夫すればよいのかを教え合う。</li> <li>・多くの作品を見ることで、自分の長所や課題を知り、考えを深めさせる。</li> </ul>
つなげる学び	重点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科や家庭生活に生かしていこうとする姿勢を身に付けさせる。</li> </ul>
	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した内容がどの場面で生かせるかを考えさせる。</li> <li>・家庭生活上で利用されている例や具体物等を紹介する。</li> </ul>

## 研究推進教科部会 手立て立案まとめ用紙 ( 保健体育 ) 科

(1) 授業の中において、各教科の多面的な見方・考え方を大切にしながら、3つの学びを意識して授業を行う。

見方・考え方
運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる。

気付く学び	重点	自己の運動や健康を見つめ直し、自分のできていることと、自己の課題を知る。
	具体的な展開方法	I C T機器を使って、視覚的に動きを把握することで生徒の体育への興味・関心を高めさせる。自分自身の動きを視覚的・客観的に確認することで何ができていて何ができていないかを把握させる。
深化する学び	重点	グループ活動で、自分や友達の改善点を考え、お互いに教え合う。 (見て考え、教え合うことによって、お互いに課題や改善点を分かち合ったり、上達を通しての喜びと達成感を感じたりする。)
	具体的な展開方法	I C T機器を使って、自分や友達の動きを確認したり、比較したりして、動作の改善点を考えさせる。(スクリーン) 友達の運動を直接見た後、映像を再生させながらどこがよかったのか、どこを工夫すればよかったのかを教え合わせる(タブレット)。
つながる学び	重点	学習内容を、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力につなげる。 友達と協力して成功を体験することによって自信につなげる。 楽しさや喜び、達成感を感じ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる。
	具体的な展開方法	気づきと深みから考えた内容を、自らの動作に取り入れて実践させる。 特定の種目に限らず、種目を飛び越えての教え合い活動が生まれるようにさせる。

## 研究推進教科部会 手立て立案まとめ用紙 ( 道徳 ) 科

(1) 授業の中において、各教科の多面的な見方・考え方を大切にしながら、3つの学びを意識して授業を行う。

見方・考え方
答えが一つでない道徳的な課題を自分自身の問題と捉え、自分の考えをもち、他人の意見を聞き、議論すること。

気付け学習	重点	課題追究意識をもち、道徳的価値を自分との関わりの中で深められる学習目標を立てる。
	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前アンケートをしておき、その結果を紹介する。</li> <li>・日頃の生活の様子を想起させ、日常の生活場面を振り返りながら、学習目標を立てていく。</li> </ul>
深化学習	重点	様々な意見や立場を理解し、複数の道徳的価値の対立が生じる場合の行動を考える。
	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに考えを書かせて、自分の考えや立場をはっきりとさせる。</li> <li>・一人一人の立場や考えが分かるように、黒板やスクリーンに提示する。</li> <li>・それぞれの立場の意見から、道徳的価値の対立に対して考える。</li> </ul>
仕上げ学習	重点	学んだ道徳的価値に照らして、自らの生活や考えを見つめる。
	具体的な展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の感想をワークシートにまとめる。</li> <li>・授業の初めに立てた学習目標に対する自分の考えや振り返りをする活動を行う。</li> <li>・事後アンケートを行い、事前アンケートとの変容を発表、掲示する。</li> </ul>